

2018年(平成30年)4月4日(水) 第32回 例会 (通算2784回)

国際ロータリー 第2580地区

(今月のロータリーレート:1ドル104円)

石垣ロータリークラブ週報

No. 2649

会長: 大浜 一郎 副会長: 遠藤 正夫 幹事: 宮城 早人 副幹事: 池城 貞光



RI 会長:
イアン H. S. ライズリー

ロータリー:
変化をもたらす

地区ガバナー: 吉田 雅俊氏「感動と調和」

●クラブテーマ「絆とおもいやり」

例会日 水曜日 12:30~13:30
例会場 アートホテル石垣島(0980)83-3311
事務局 〒907-0013 石垣市浜崎町 1-1-4
TEL/FAX(0980)83-2917
<http://ishigaki-rotary.jimdo.com>
E-mail ishiroatary@ninus.ocn.ne.jp



◎カラス座

この台形がどうしてカラス座なのか。実はカラスを空に打ち付けた釘。からす座のカラスは、とある事情で空に釘で貼り付けられてしまったんです。

3月28日(水)第31回(通算2783回)例会報告

<司会進行> 我那覇 宗広

ロータリーソング・「奉仕の理想」 「四つのテスト」

ソングリーダー・南波 正幸

ゲスト・山城 興司氏(沖縄振興開発金融公庫八重山支店長)

メイクアップ・・・新 賢次・佐藤智博・大濱達也

小林昌道・大浜勇人・宮良 薫・宮良幸男・小底 厚子

出席報告

会 員 総 数	43名
出席 義務 会員	42名
出 席 数	30名
欠 席 数	12名
出 席 率	71.43%
通算出席率(3月)	68.25%



本日のにこにこ

・吉田くん入会おめでとう。山城支店長卓話ありがとうございました。(大浜 一郎)

BOX ￥1,000 (累計￥162,000)

コイン ￥3,811 (累計￥70,269)

合 計 ￥232,269

新 賢次氏(1958年4月2日)

大濱 透氏(1961年4月7日)

今週の

お誕生日おめでとう



会長挨拶：大浜 一郎



MyRotaryからの情報で40代のロータリアンが極端に全世界で減っているという事がありました。世代間が広がっているが故に、なかなか会員増強ができないと、テーマとして挙げられていました。比較的石垣 RC に関しては、そんなにバラつきもなく、良いバランスだと思います。6月まで目標の45名を達成したいと思いますので、ぜひご紹介をお願い致します。

先週、娘の卒業式もあったので、東京へ行きました。お礼かたがた永田町へ行ったりしていましたが、桜が満開の時に当たった事がなかったため、今回の桜の美しさには圧倒されました。着いた翌日に名残り雪が降って、ものすごく寒くて、翌日は満開の桜と、変な季節、1日通して感じました。実は名残り雪という言葉はなかったそうです。かぐや姫の伊勢正三さんが、名残り雪という言葉を作って、それを去年辺りから気象庁の名残り惜しい雪という意味を込めて、名残り雪というのが言葉として認定されたというお話も聞きました。沖縄の桜もピンクで綺麗なんですけど、花ごと落ちるので、ひらひらと舞い散るとはなりませんので、本当に日本の桜は綺麗だと思いました。

今日は転勤間近で大変お忙しい中、沖縄金融公庫の山城支店長にお越し頂きました。卓話をしてほしいとお願いをしていましたが、大変多忙な方ですので、なかなか難しかったんですが、最後の最後に引っ越しの荷物をまとめるのに忙しい中、お越し頂きました。今日は公庫のご紹介も含めて、卓話を頂きたいと思います。

ゲスト卓話：山城 興司氏

沖縄振興開発金融公庫 八重山支店長



まず、公庫のご紹介を少しさせていただきます。業務内容として、地域に根ざした総合公庫という事

で、融資業務から受託業務まで色々な業務をしています。その中でメインは融資業務で、本土の政策金融機関を一元的に沖縄で扱っている組織です。ある意味、国の政策をやりながら、沖縄県の課題とか色々な政策に取り組むという事で、沖縄県における総合政策金融機関という位置づけになります。設立以来の出融資実績は6.3兆円。沖縄公庫は、沖縄県の政策に沿った融資を行っています。沖縄21世紀ビジョンの中で、県内の色々な施策があり、その中で離島における定住条件の整備とか、離島振興も大きな沖縄県のテーマになっているという事を受けて、特に沖縄県の中で八重山支店は、離島の離島ではありますが、県の施策の柱でもありますので、それに沿った形の色々な融資があります。沖縄公庫独自融資制度があって、駐留軍用地跡地の利用促進、リーディング産業の振興、産業集積の推進、農業振興という形で、県の抱えている政策課題を解決するための融資を行っています。離島に関しては、離島振興・活性化の支援という事で、沖縄離島振興貸付というのがあります。これは離島で事業をされている方を融資の対象として、貸し付けるということです。また各地に支店を置き、離島振興・活性化を支援しております。特に離島においては、事業者数に対する公庫の取引先の割合が、八重山支店ですと39%、さらに宮古島は高く、離島においては公庫の資金が広く活用されているという状況です。

それから、地方自治体との取組みという事で、八重山三市町、石垣市、竹富町、与那国町と助言業務協定を結んでいます。地域のプロジェクトに関して、最初の計画の段階から公庫が関わって、色々な支援をしています。また、産業開発資金という本店で扱っている制度ですが、特にインフラ整備とか空港、飛行機、電気、ガス、大型リゾートホテル等を担当する部署がありまして、大規模な事業に対して融資をしています。他にリーディング産業を支援するという事で、融資以外にも出資という機能がございます。このように幅広く、色々な所で小さな事業から大規模な事業までを支援することができます。特に県でも離島振興については大きな柱になっていますので、さらに深堀して支援するような制度や優遇措置を離島では取っているという事で、ぜひ皆様方も何か機会があれば、公庫を利用いただきたいと思います。

さて、八重山地域、観光関連を中心に伸びています。その現状を一緒に考えたいと思います。沖縄振興計画が平成24年度から平成33年度の10年という事で、この振興計画が始まる手前の平成

23年と昨年29年との比較です。現状の八重山観光と言いますと、平成29年度の入域観光客数が138万6千人と過去最高で、空港開港以来、機材の大型化とかクルーズ船寄港回数の増加、あとは官民一体となったプロモーション活動といった積極的な情報発信によって、かなり急速に観光客数は増えています。現時点で大きなマイナス要因はありませんので、予定されています国際線、空港の増改築、クルーズ船のバースの設置などインフラ整備が進むとさらに拡大すると予想されます。加えて西表の世界遺産登録など、観光客の集客に繋がるような明るい材料が、八重山地域には多いという事で、今後も観光としては、非常に好調に行くと思っています。中長期的に見れば旧空港跡地の開発、役所移転後の美崎町の再開発、離島ターミナル等、今の市街地がさらに大きな市街地になって観光の受け皿になると考えれば、今後も順調に伸びるだろうという事が言えます。その中で急激な観光関連の伸びで、建設コストが高いとか人手不足など、なかなか供給が追い付いて行かないというのが課題になります。特に離島地域においては、人手不足は非常に深刻な緊急の課題ですので、官民一体となってしっかり知恵を絞って対応をしていかなければ、こういった供給の遅れが公共投資の遅れとか、民間投資の手控えに影響してくるのが、非常に懸念されるという状況です。

加えて観光客が増えています。実際に地元の人たちに還元されているか、地元の人が増えているかを考えると、どうしても観光消費額の大部分が圏域外へと流れて行くという構造があります。例えば、お土産品を1つ1,000円で売ったとすると、仕入れが800円、800円は県外の業者に支払われるので、島に残るのは200円という事なんです。この仕入れを島でやれば、島に800円も落ちますので、そういう仕組み作りをする。おきゆめ紫を例にすると、島の人が芋を作って、それを業者が買い上げて、お土産品にして売ると。売れば売れるほど、お金は芋を作っている地元の人に還元されます。そういったお金が島に耐久するという仕組みが非常に大事だと思います。

もう1つは1人当りの消費額はあまり伸びていないということです。これに関しては滞在日数を増やす必要があるだろうと考えていまして、この八重山というのは、特色のある島々がたくさんあって、こういった島の文化、伝統行事、芸能を活用した周遊型の観光、例えば石垣で2泊、竹富で1泊、出来れば与那国で1泊、八重山だけで4泊はできます。今だいたい県内の平均が3.8泊とい

う状況なので、あと1泊でも増やしてもらおうような努力が必要じゃないかと思っています。それには竹富の島々で宿泊数を増やしていくという、懐深く取り込んで、そこに人を呼び込んで1泊、2泊してもらって、滞在日数を増やしてもらおう、そういった懐深い八重山観光を目指していくというような工夫をする必要があるだろうと思います。今、竹富島はたくさんの方が来ますが、なかなかお金が落ちる仕組みがないという所もあって、きっちりお金を落とすような、ちゃんと人は来ている状況はあるので、それを如何にそこにお金を落とすような仕組みを作るかを工夫しないといけないかと思っています。

この2期間の比較をすると、観光客数はこの6年で2.1倍になっています。内訳は県外直行便が3.8倍、県内便が1.2倍、実は県内便はあまり増えていないんです。直近の4年ぐらいだとほぼ横ばいの状況です。注目したいのは県外直行便です。県外直行の方々には沖縄旅行をする時に、わざわざ八重山を選んできているわけです。そこが4倍近い伸びを示しているという事は、やはり八重山地域の認知度が高くなっているという事です。加えてこういう方々は本島経由ではないので、石垣に2泊して竹富に1泊して与那国に1泊できる。そういった旅行のプランが作れる方々になるわけです。その中で、八重山地域は直接観光に影響するホテル・旅館、卸小売り、飲食業、この3つの業種に勤めている従業員の数が47%、約半分の方が観光関連の業種に勤めていますので、やはり地域においては観光を中心手段として、外貨を稼ぐ事は大変重要になります。八重山の人口は微かながら増えていますが、今後減少に転じるという試算もありますので、交流人口を増やすことによって、地域経済を支えて行くというのは、とても重要な事です。やはり石垣に来るお客さんは国内客、外国客いろいろいて、中には富裕層もいるし、中間層やバックパッカーとかもいます。LCCで来て安い値段でダイビングをして、楽しめればそれで満足という方もいますし、きちんとした付加価値の高いサービスを受けたいという、単価の高い客層もいますので、色んな相手先を見て、こういった観光の行動をしているかを分析しながら対応をしていく事が大事だと思います。

こういった議論をする法人、DMO (Destination Management Organization) というのがあります。石垣は候補法人として登録されています。地域連携DMOという事で、石垣、竹富、与那国、こういった連携をしっかりと取りながら、地元の観光

地づくりをしていこうという法人です。このDMOの中でしっかり分析なり、データを収集して議論をして、どういった事で今後八重山を伸ばしていくか、そういった検討をしながらしっかり進めて行く必要があるかと思えます。

公庫レポートのデータですが、離島認知度や旅行経験のある離島として、上位10位の中に八重山地域は5つ入っています。その中で石垣はダントツ1位です。旅行者が離島に対して何を期待しているか。のんびりした時間、海、ビーチ、島の美味しい物、海だけではない自然、沖縄固有の伝統文化、マリンレジャー、島の住民たちとの交流を楽しむというように、全部八重山にあるわけです。離島旅行に対する満足度は、期待以上と期待通りを合わせると82%の人が満足しているという状況になるという事です。それから希望する沖縄旅行の出発日。働いている方々は金曜日が多いと、だけど60代以上は出発日に月曜日を選んでいきます。そこがうまく分散しているのが非常に良い所です。そしてシルバー層は旅行の単価が比較的高いという事、離島に行くのに抵抗感が少ないという事、夏場の7月8月を避けて旅行をする傾向があるという事で、年間の中でシルバー層を狙うと平準化が図れるという事が言えます。八重山観光をどう伸ばしていくかを考えていくには、データを集めて分析して、それに基づいて対応策を立てて、しっかり実行していく。特に地域連携DMOという事で、石垣、竹富、与那国で連携を取りながら、これまでバラバラに色んな事をやっていたのを取りまとめて、しっかりそこで議論していけば八重山はもっともっと伸びていける、非常に期待できる地域だと思います。

私も4月で転勤になりますけど、那覇から八重山の状況を見ていますので、本当に皆さんの今後の活躍を期待したいと思います。

～例会風景～



吉田さんの入会式を執り行いました。



公庫のデータを基にお話しを頂きました。

新入会員紹介

先輩方と一緒に積極的にロータリーの活動をして行きたいと思えます。



氏名：吉田 貴紀氏

生年月日：1979.2.18

勤務先：(株)ロイヤルマリンパレス

役職：代表取締役社長

職業分類：ホテル業

台北大同 RC 姉妹締結調印式

開催日時：4月18日(水)

調印式：18:00～18:30(受付17:30)

懇親会：19:00～

登録料：¥10,000(奥様¥6,000)

※会員全員参加よろしくお願い致します。

春日部西 RC 創立35周年ご案内

日時：6月1日(金)

式典16:00～(登録15:30)

祝宴17:40～

会場：浦和ロイヤルパインズホテル

登録料：¥15,000

※参加できる方は事務局までお願いします。